

## 令和5年度神戸大学後期日程 入試問題『出題の意図・評価ポイント』

### 小論文（国際人間科学部グローバル文化学科）

- ※1 この『出題の意図・評価ポイント』についての質問、照会には一切回答しません。
- ※2 配点（素点）は入試問題に記載してあります。  
なお、本学入学者選抜のための教科・科目ごとの配点については、令和5年度神戸大学学生募集要項を参照してください。

#### 【出題の意図・評価ポイント】

##### 問1

19世紀の欧米では世界中の奇異なもの（自らとは異なる見た目をもつ他者）に関心が向けられ、またそれを背景とするビジネス感覚が広がっていたという論点について、本文に即して的確に説明できているかを評価のポイントとした。

##### 問2

他者の劣位性と自らの優越性を自明視する人種主義が19世紀欧米の世論に浸透していただけでなく、科学がそれを追認し正当化する役割を果たしていたこと、つまり当時の世論と科学がいわば共犯関係にあったという論点について、サラ・バールトマンの事例に即して的確に説明できているかを評価のポイントとした。

##### 問3

本文全体の中心的な論点は、「まなざし」にはともすると他者のうちに見て取った差異を自らの優位性の証明へと結びつける認識が含まれてしまう、という点にある。この点を的確に理解したうえで、そうした「まなざし」に対応するような事例を現代社会のなかに見出す思考力がそなわっているか、そしてそこに含まれる問題性を具体的かつ論理的に論述できているかを評価のポイントとした。